

## 新任薬剤師研修を終えて

西埼玉中央病院 薬剤部 伊藤 祥子

出身大学：東京薬科大学（平成28年）

興味のある分野：チーム医療

平成28年4月1日付で西埼玉中央病院に採用となりました、伊藤祥子です。

当院では5年時の病院実習の際にもお世話になりましたが、「薬学生」から「薬剤師」という当時とは違った立場から、毎日新鮮な気持ちで業務に取り組ませていただいています。

働き始めて早くも3ヶ月以上が経ちました。毎日学ぶことが多く、1日の終わりには自分の勉強不足に反省する日々です。

私が携わっている業務内容は、主に調剤業務、持参薬について患者さんからの聞き取り・鑑別、定数薬剤の管理です。はじめの1～2ヶ月は業務の流れや細かいマニュアルを頭に入れることで精一杯でしたが、最近では少しずつ業務に慣れ、これから病棟業務を行う上で必要な薬剤や病態の知識を頭に入れていかなければという気持ちでいます。

7月2日の第20回新任薬剤師研修会では、「医療安全」をメインテーマとし、講演、グループワークが行われました。グループワークでは、医師・薬剤師役に分かれ「輸液の処方におけるビタミン剤の追加処方の提案」を行いました。また、チームで協力し、紙の輪を鎖でつないでいくという作業を通し「チーム STEPPS」における4つの基本である、①リーダーシップ ②状況モニター ③相互支援 ④コミュニケーションの概念について学びました。このグループワークでは、

「利き手を使わない」「言葉を発してはいけない」といったお題に基づいて議論され、想像以上にグループでのチームワークが必要とされました。さらに、医療施設におけるスタッフコミュニケーションの動画を見た上での意見交換を行いました。

これらの研修内容から、医療安全の基本として、現場におけるコミュニケーションがいかに重要であるかということを知りました。病院では医師や看護師、栄養士、臨床検査技師など様々な職種の方々がそれぞれの専門性を活かして治療に貢献しています。それぞれの職種が様々な視点から意見交換をし、上手にコミュニケーションを図ることが、患者さんのより良い治療につながると感じています。

私がこの3ヶ月で最も強く感じていることは、薬剤師という職種の重みです。薬剤師が「薬を払いだす」ということは、「患者さんの治療に対し責任を負う」ということです。その重みをしっかり考え、医療安全の視点から、正確な処方監査、調剤、処方提案を行えるよう自己研鑽を積んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の研修会を企画・運営して下さった先生方、日頃温かくご指導いただいております西埼玉中央病院の先生方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。